

第255回

今月の予定

委員会 2月13日  
サロン 2月13, 27日  
レジオ 2月18, 25日

2000年2月号

いろいろなこと

山崎 正俊

あれは地震というものです。あったことはあったことです。どうしようもないことでしょう。ほんの数秒のことでしょう。何もわかりません。ぼうぜんとしていたことです。むごたらしいとでも、云えることかもしれません。それでも、そこから生きようとするしかないのです。なぜそこにいたのか。なぜそんなことになったのか。何かが、上から落ちてきたのです。そうになっていたのです。びっくりしたのです。息苦しくなりました。何も見えません。とりあえずは、そこから抜け出さねばなりません。たったひとりぼっちで。助けてください。どなたか、手をかして。

あとからわかったことでしたが、倒れかかって来たダンスが、何かにつかえて、宙(ちゅう)にとまっていたのです。その下をくぐって、手さぐりで、はいすすんだのです。運がよかったねと、云われました。その上に、天井(てんじょう)と屋根が、かさなっていたのですが、私は、何にも傷を受けてはいなかったのです。さいわいでした。

どこかの、おぢさんやおばさんのおかげですが、引っぱり出していただけました。そこは見たこともない、ありさまでした。どうしたのかわからないけれど、何も彼もが、こわれてしまっていたのです。「よかったね」と喜んでくださったのは、嬉しいのですが、後は、ほんとの、ひとりぼっちに、なってしまったのです。あちこちが焼けて、煙がたちこめ、火を消したりしておられます。私は教えられるままに、そこから離れねばならなくなり、お父さんもお母さんも、みんな、いなくなったのです。お友達にもたいてい、会えなくなってしまったのです。近くの中学校には行けたのですが、それからは、何をしたらよいのかは、見当もつかなかったのです。

いろんなことを教えられ、お友達と出会ったりして、はじめての場所で、知らなかった :一緒に、毎日をすごしておるのですから、これまでのところは、あまり思い出せませんが、新しいことばかり気になり、思い出などは悲しいので、あまり役立ちません。おぼえねばならないことが、多すぎます。それでも頑張っています。頑張らねば。

— その荒れはた場所、見たこともない風景。見馴れないものばかり。耐える方法はわからないのに、これまでと違うことでも、しなければならぬ。手に触れるものを使って、役立つことをしなければならぬ。喜ばれることを続ける。工夫する。すこしづつ馴れてくる。力を合わせているうちに、わかってくることもある。私にも成長がある。他の人をたよりにしていたのに、たよりにされる者にもなっていることがわかってくる。私なりに役立つ仕事が見つかる。働きながら、何かが身についてくる。ゆとりもできてくる。何かの技術にも熟練する。資格も認められはじめる。そのことで、安心して、まかされるから、自信もついてくる。ただ、助けてくださいと云うだけの私も、お礼としての喜びを分け与えるものになってゆく。お互いに支え合えるものとして生きる者になる。誠実に忠実に、奉仕するようになれる。誰でも、身にそなわった特技によって役立ち、働ける者としての有難さを生きることが出来る。

いま、やっと、自分の道に徹することになれる。何が「まことに生きる」ことかがわかる。何が大切であるかを知る。他の人に奉仕しながら、日をおくる者の祈りよ。

委員会だより

<1月16日(日) 12名出席>

【1】財務報告：99年年間決算報告

(単位:円、括弧内数字は99年度年間予算)

	99°収入累計	99°支出累計	収支差額
一般会計	7,935,200 (6,367,268)	7,027,332 (6,267,268)	907,868 (100,000)
建設会計	5,284,906 (3,245,476)	3,627,950 (2,873,000)	1,656,956 (372,476)
愛の献金	858,905 (861,749)	460,840 (520,000)	398,065 (341,749)
信徒預金	649,510 (841,673)	530,135 (680,000)	119,375 (161,673)

◆特記事項：◆一般会計：月定献金実績：1口当月額 ¥2,907で予算¥3,131に届かず。特別献金年間合計：神父様より¥1,861,386、信徒他より¥321,768減く。  
◆建設会計：建設献金実績：1口当月額¥1,134でほぼ予算¥1,143のレベル。特別献金年間合計：神父様より¥884,700、信徒他より¥1,307,000減く。

【2】議題：

(1)平成12年度年間予算検討：下記予算案で合意。

	収入	支出	繰越
一般会計	¥6,257,868	¥6,157,868	¥100,000
建設会計	¥3,356,956	¥2,795,000	¥561,956
愛の献金	¥780,065	¥320,000	¥460,065
信徒会計	¥619,375	¥440,000	¥179,375

◆特記事項(1) ◆一般会計ご復活/堅信のお祝いで ¥130,000支出を予算化。◆建設会計来年度は、今までの「繰上返済」の効果がでて来る予定。

◆特記事項(2) ◆1999年度の一般会計収入のうち、経常収入(月定献金+ミサ献金)は¥4,783,994であり、あとは特別献金他に頼る状態。信徒総会にて信徒各位に財務の実態を説明し協力をお願いする。

(2)平成12年度信徒総会(1月30日)プログラム：概ね原案通り(開会宣言とお祈りは、竹内さん)

(3)その他、年間予定表、各委員職務分掌を確認、信徒総会に諮る原案を決定した。

壮年会だより

<1月23日(日) 18名出席 於 新信徒会館>

◆昨年度活動報告及び昨年度会計報告 一括了承  
◆今年度行事予定 5月に予定している教会の庭の草刈りは、梅雨前に行なうと、梅雨の後またまた草が伸びてくるので、結局2回、やらなければならない。昨年と同じく7月に予定したらとのご意見あり、7月に実施と決まりました。

◆議案

(1)サロンの運営につき、諸般の事情により8月、12月はお休みとする事を会議で確認決定致しました。

(2)広報「なかわだ」の投稿について、ただ今のところ原稿難で、担当は大変困っておられます。会員の皆様の奮っての投稿をお願い致します。7月、9月、11月の投稿は壮年会の御長老に特にお願いしたら如何?とのご意見あり、「温古知新」シリーズ中々興味深いものがあります。

(3)2月聖書朗読者 2/6...上野さん 2/27...小野さん

◆その他

◆壮年会会費納入袋作成中です。出来ましたら献金箱の上の状差しの中に入れておきます。平成11年度会費未納の方が見受けられます。整理がつきませんので、至急お納め下さるようお願い致します。

◆第1回教会委員会(1/16)にて2000年度行事予定が提案され、その予定での白眉は4月9日(日)に行なわれる「堅信式」でしょう。受堅される方々のお喜びもさることながら、司式して下さるフレッシュな梅村司教様を、如何に歓迎すべきか壮年会として、久々活気ある話題となりそうです。

婦人会だより

<1月23日(日) 49名出席>

- ◆平成12年度総会
- ◆平成11年度会長挨拶お祈り
- ◆平成11年度活動報告(書記)
- ◆平成11年度一般会計報告及び特別会計報告  
特別会計のバザー残品売上を建設資金に入れる提案 ⇒ 平成12年今年度役員考慮了承
- ◆新役員紹介 松下(ツ)、望月、小野(和)、八乙女、石川、清水、松尾(シ)

◆1月例会

- ◆会費月額100円前年度と同額で承認
- ◆主な行事は昨年同様、遠足、卓球大会、等。遠足につき、希望候補地を2月例会迄に考えておくようお願いする。
- ◆今年度予算案説明とお願い

◆神父様のお話：教区に洗礼、転出の人数を報告しなければならない。名前だけの不明信者につき意見を言う人がいるが、その必要はない。他人の欠点はよく見えるが、文句を言う前に参加して手伝う。そして助けを借りよう心を開く。競争心を捨てることで、仲良くなれる。助け合うことによって過しやすくなる。自分の経験から、足りなければ、この次に直しましょうという考え方で、信仰に生きるということは、このようなこと。田浦モンタルの伝記の中で、自分が愚かなことをやっていたことを思い出す時、進歩するとあるが、黙って他人の為に祈ることが大事。自分の判断が正しくて他の人の判断が間違っていると思うところに、間違った道がある。相手の心をやさしく受けとめ、教えてあげる。

◆新年会 健康に感謝して乾杯、マリア音頭、手話ダンス(愛する時は今)、長生きの歌、ボケない小唄、若者たち、アーメンハレルヤ、最後シャローム(主の平和)で和やかなうちに、終了

次回例会は2月20日(日)、次回当番はA地区です。

お知らせ

結婚

1月22日(土) 於 山手教会  
保科 道成 カタリナ 大宮 桂子  
〒252-0804 藤沢市湘南台5-25-2  
Tel (0466) 45-5795



ミサ当番表 (2000年2、3月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
2/6	年間第五主日	壮年会	美底
2/13	年間第六主日	青年会	森田
2/20	年間第七主日	婦人会A地区	大宮
2/27	年間第八主日	壮年会	美底
3/5	年間第九主日	壮年会	森田
3/12	四旬節第一主日	青年会	大宮
3/19	四旬節第二主日	婦人会B地区	美底
3/26	四旬節第三主日	壮年会	森田

※当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典禮委員(萩原氏: Tel. 802-6258)迄お申し出下さい。



# 十戒伝説のシナイ山に登って

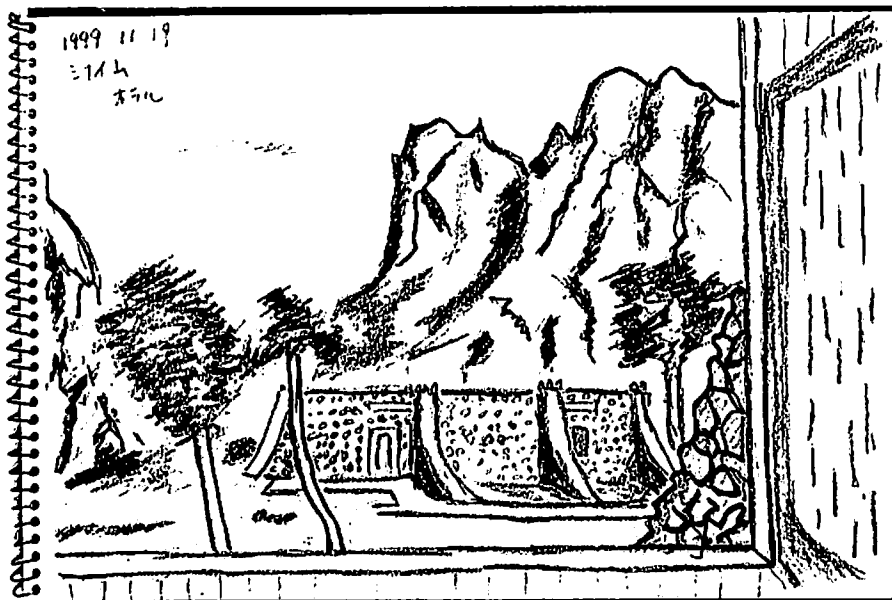
下村 毅

1999年11月21日(日)午前1時15分シナイ半島南部、標高1500Mの「ラディエルホテル」で、日本より持参の目覚まし時計の、ベルが鳴り飛び起きた。(ホテルは山小屋と言うので、日本の山小屋を想像していたが、石造りの長屋で、風呂等一部不具合はあったが、部屋は広く家具等の調度品は格調が有り、予想に反したレベルだった。)2時15分ホテルのお茶のサービスを受け、2285Mのシナイ山登頂を目指し出発。バスで10分程走ると登山口に着いた。右手には高い城壁が有る。直ぐにセントカトリヌ修道院と分かった。周りの明かりは全く無く、頭上のヘッドライトを上下左右に振って見たが、大きさは分からない。塀の前を進みラクダ小屋を通ると「フィフティンダラーラクダ」(15米\$でラクダをどうぞ)とラクダ使いが叫ぶ。「モーゼの苦勞を少しでも分かるため、歩いて行くことにした」ガイドを先頭に、ラクダと前後しながら歩き出す。(ラクダの足裏は猫のようで、音はしない)暫く上りのだらだらとした砂利道を行くと、石積みの整備された階段になる。雨の降らない地域なので満天の星空は、手が届きそうな高さで輝いている、日本より数段は大きく見える。4時20分ラクダの終点小屋に着く。(腰に付けた万歩計は4000を示している。)ここで水分を補給して更に頂上を目指す。階段の歩幅も「狭かったり、切り立った急な登り階段だったり、一部下りがあったり」で、急に厳しく成って来た。でも良く整備されている。なにせエジプト国の外貨獲得は「スエズ運河の通航料が一番で、観光収入が二番」だそう。途中の休憩している人を尻目に階段を登り続けた。山頂休憩所のカーバイトの明かりが段々大きくなって来る、そして息を弾ませて5時20分やっと山頂へ到着。まだ暗いがざっと200名は居ただろう。少し明るくなって来た。周りの山々は鋭く切り立った岩山だ。山頂の気温は事前説明では零下になると聞いていたので、持ってきた防寒着を全て身に付けた。モーゼの時代は登山道も整備されて

なく、我々はウォーキングシューズを履いているが、粗末な履物防寒着だろうから「それは苦難の連続だった」と思う。6時07分待ちに待った「日の出だ」若干雲はあったが「太陽はものともせず顔を出した」どこの国でも同じなのだ、歓声が一斉に上がった。「山肌も赤く染まった、山々は樹木は一本も生えていない、青い空と太陽の燦とのコントラストが素晴らしい」今まで見えなかった山頂には、古いレンガ造りの「三位一体の教会」(ユダヤ教キリスト教イスラム教三代一神教)がある。

「現在は使われていないようだ」、周回路を巡ると360度の展望全てが「ゴツゴツした岩山」だ。ここで十戒を授かったのだろう。{第一の戒

律「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない」と言う唯一神の宣言である。}を始めとした十戒(「出エジプト記」20-3)。景色を堪能して下山に入った。登りは暗い中星空が励ましてくれ、夢中で歩いたが、明るい下りに入ると階段はきつく歩幅は一定ではない。こんな山頂にも野鼠がいた。人間の食べ残しを食べているのだろう。細かい石がごろごろしている所もあり、歩いていると暑くなってきた。休みながら振り返ると山頂の三位一体の教会が小さく見える。しかし、急峻な岩山だ、ラクダの後ろを歩くと凄惨な砂埃だ。岩が風化して砂状になったのだろう。8時15分セントカトリヌ修道院へ到着。西暦3500年建設だそうだが、山岳地での建物は重厚であり歴史を感じた。14,400歩で完歩。



「ラディエルホテル」の窓より 石造り長屋の別棟とシナイ山連山を望む

# 新年の御挨拶

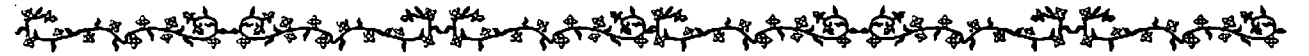
壮年会会長 竹内 広治

新年明けましてお目出とうございます。輝ける、紀元2000年の夜明けを迎え、この大聖年に存命しているお恵みを感謝し、皆様と共に喜びを分かち合いたいと思います。

本日、中和田教会壮年会の総会を開催致しまして、昨年1年間の活動と、会計収支を報告致しました。併せて本年度行事予定も一括御承認頂きました。皆様の御理解とご協力に感謝致します。有り難うございました。さて、行事予定にありません、教会の大掃除や草刈りなど、恒例のイベントには壮年会が作業の中心として信頼されておりますので、今後も皆様方の積極的なご協力をお願い致します。その働きの一つ一つが祈りと犠牲の上に有り、主のみ心に叶うもので有ることを私たちは知っております。やがて信徒同士の理解と友愛が広がり、霊的な向上が図られて、教会の発展がもたらされるものと確信致します。

尚、本年は新しく横浜教区長になられた、梅村司教様をお迎えして「堅信式」が行なわれ、式後祝賀パーティーが催されます。喜ばしく、楽しく、教会中が笑顔いっぱい、祝福された一日でありますように、各会夫々努力致しましょう。

壮年会の役員を承って2年目を迎えます。慣れぬ事とは言え、至らぬ事ばかりでご迷惑をお掛けしています。精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。



婦人会会長 松下 ツヤ子

2,000年の新春を元気で迎えることが出来た事を神に感謝したいと思います。

平成12年度の婦人部役員は昨年度と同じく7名の方が決まりました。不慣れでわからないことばかりではございますが、皆様方のあたたかい御協力をお願いしたいと思います。

教会に来る信者の方が少なくなっているとの事で、教会より遠ざかっている信者が2,000年の年に1人でも多く、教会を思い出し私たちと一緒に活動に参加していただける日を、神に祈りたいと思います。

## 環境コーナー

### 山の環境について (登山家 田部井さんのお話より)

環境を考える会 町田 保子

『世界最高峰のエベレストは、1921年頃から、1シーズン、1隊の割合で登山者が入る様になり、登山料は、1000ドルだった。今は70,000ドルになっている。1970年頃からの登山は無制限になり、1日40人の登山者が入っている。(過去22年間で37人だった)』

日本の登山家40隊員のアンケートから、一人当たり530Kg(外国は420Kg)の荷物を持ち込むが、その1/3は置いて来た。私もエベレストに酸素ボンベ1本を置いて来たことに自責の念があり、昨年は尊い自然を残すために、再びエベレストのベースキャンプ(5,350m)を訪れ(24年ぶり)、山の汚れを調査した。

コーヒー店、カラオケまで出来ていて、ベースキャンプ場の氷河は後退し、黒土が現わされた。登山者の荷物を運搬するヤクの尿尿、クレバスの様子、酸素ボンベ、食料の袋や生ゴミ、空、等がゴミとなっていて、中でも燃えるゴミが一番多く、その処理方法の研究を急いでいる。また山の環境を保護するボランティアと清掃登山をしたり、山の環境保護を広く世界に呼びかけている。日本の山についても、特に富士山は汚れている。年に40万人の登山者が入り、山小屋が55軒もある。沢山の自動販売機と尿尿のたれ流しで、トイレトペーパーが白い川の様には散らばっている。』

というようなお話でしたが、とてもきれいな所もあって、南極の山など、この世のものとは思えないほど美しかったそうです。またインドネシア西イリアンの奥地には今でも石器時代と同じ様な生活をしている人達がいて、バランスのとれた地球にやさしい人種のお話もありました。

富士山には私も40年前に登りました。素晴らしい雲海と感動的な御来光は、生涯忘れ得ぬ思い出です。今は五合目までバスが入っていますが、その頃は車の道もなく登山者は夜麓から登ります。富士山の麓は豊かな緑におおわれ、高度が増すごとに緑は少なくなり、やがて黒い石やガラスだけになっていました。今より食糧事情も悪かったので、ゴミも少なかったのかも知れませんが、山はきれいだった様に思います。山小屋も石室とあって、その石室への荷物は馬が運んでいました。鈴の音と共に、地下足袋をはいたはっぴ姿のおじさんと馬が登って来ると、登山者は道をあけて待ちます。馬は背中への両側に南京袋をつけて、荒い鼻息と山道を踏みしめるひづめの音、馬を励ますおじさんの声を緊張して見送りました。やがて暗闇に消えていく人馬と鈴の音。

再び登山者はゆっくりと歩き始め、自然にやさしい情景だったと思います。